

会 見 年 月 日	令和5年6月2日（金曜日）		
担 当 課	企画政策課	（担当者名：玉木、深澤）	
問い合わせ先	TEL：0791-43-6867	（内線：2454）	FAX：0791-43-6822

ル・ポン国際音楽祭2023 赤穂・姫路の開催について

1 趣 旨

世界最高峰のオーケストラ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の第一コンサートマスターで、世界的ヴァイオリニストの榎本大進氏が音楽監督を務めるル・ポン国際音楽祭2023 赤穂・姫路を下記の日程で開催します。

この音楽祭は、榎本大進氏と親交のある世界で活躍中のアーティストを招いて室内楽の楽曲をお届けするもので、2012年（平成24年）から姫路市と共同で開催しています。

2 日程・会場

令和5年9月30日（土）～10月7日（土）

9月30日（土）	開演	17時	赤穂城跡特設会場
10月1日（日）	開演	17時	赤穂城跡特設会場
10月3日（火）	開演	18時30分	赤穂化成ハーモニーホール（大ホール）
10月4日（水）	開演	18時30分	赤穂化成ハーモニーホール（大ホール）
10月6日（金）	開演	19時	アクリエひめじ（大ホール）
10月7日（土）	開演	18時	アクリエひめじ（大ホール）

※ 野外会場の公演（赤穂城跡特設会場）は、雨天の場合、会場を赤穂化成ハーモニーホール大ホールに変更します。

【裏面へ】

3 出演予定者 7カ国15名（うち初参加5名）

ヴァイオリン	樫本 大進	日本
	ナタリア・ロメイコ	ロシア
	アレーナ・バーエワ ◎初参加	ロシア
ヴィオラ	リーズ・ベルトー	フランス
	赤坂 智子 ◎初参加	日本
チェロ	アレクサンダー・チャウシャン	アルメニア
	ユリアン・シュテッケル	ドイツ
コントラバス	ナビル・シェハタ	ドイツ
フルート	エマニュエル・パユ	スイス
クラリネット	ポール・メイエ	フランス
バスン	ジルベール・オダン	フランス
ホルン	ブノワ・ド・バルソニー ◎初参加	フランス
ハープ	マリー・ピエール・ラングラメ ◎初参加	フランス
ピアノ	エリック・ル・サージュ	フランス
	ホセ・ガヤルド ◎初参加	アルゼンチン

※ 出演者は6月2日現在の予定です。やむを得ない事情により、変更になる場合があります。

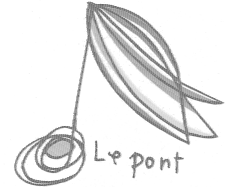
問合せ先 赤穂国際音楽祭事務局（赤穂市市長公室企画政策課内）
 Tel 0791-43-6867 Fax 0791-43-6822
 Mail kikaku@city.ako.lg.jp
 姫路国際音楽祭事務局
 （姫路市観光スポーツ局観光文化部文化国際課内）
 Tel 079-221-2098 Fax 079-221-2419
 Mail bunkakokusai@city.himeji.lg.jp

ル・ポン国際音楽祭2023 赤穂・姫路



2023. 9. 30 ~ 2023. 10. 7

赤穂国際音楽祭 事業計画書
令和5年(2023年)5月



● 目的

- ① 赤穂においてクラシック音楽を市民が、特に将来を担う子どもたちが気軽に楽しめる環境をつくりだすこと。
- ② 異なる文化圏からの音楽家たちや来訪者と市民との交流の機会を提供すること。
- ③ 豊かな自然環境や歴史・文化に恵まれたまち「赤穂＝AKO」の名前を改めて全国へ、そして世界に向けて発信し、観光振興、定住促進等に寄与すること。

● 経緯

赤穂市に縁がある世界的ヴァイオリン奏者榎本大進氏から、世界の実力派演奏家を「ふるさと赤穂」に招き、ヨーロッパで開かれているような市民手づくりの音楽祭を定期的開催できないかとの提案を受け、2007年から同氏を音楽監督に迎え、同氏と親交のあるヨーロッパを中心に活躍中の演奏家を招いて国際音楽祭を開催している。

2012年から姫路国際音楽祭と共同開催。

● 名称

ル・ポン国際音楽祭 2023 赤穂・姫路

【英文表記】 Le Pont International Music Festival 2023 Ako & Himeji

Le Pont(ル・ポン)とは、フランス語で「架け橋」を意味する。この音楽祭が音楽と平和、現在と未来、赤穂・姫路と近隣自治体、東日本や熊本など、被災地から世界にまで広がる「架け橋」となるようにとの願いを込めて。

● 期間

「ル・ポン国際音楽祭 2023 赤穂・姫路」は、2023年(令和5年)9月30日(土)から10月7日(土)までの8日間とし、赤穂市では、9月30日(土)～10月4日(水)の間、赤穂城跡特設会場及び赤穂化成ハーモニーホールを会場として4公演を行う。

● 主催等

音楽監督 榎本大進

主 催 赤穂国際音楽祭実行委員会、姫路国際音楽祭実行委員会

共 催 赤穂市、赤穂市教育委員会、公益財団法人赤穂市文化とみどり財団
姫路市、姫路市教育委員会、公益財団法人姫路市文化国際交流財団

後 援 兵庫県他

※アーティストは個人の自由参加であるので、関係国大使館の後援は求めない。

助 成 独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人中内力コンベンション振興財団

協 力 株式会社ジャパン・アーツ、スタインウェイ・ジャパン株式会社（予定）
文化庁 地域文化創生本部（予定）

● 基本方針

- (1) 榎本大進氏を音楽監督とし、同氏と親交のある世界で活躍中のアーティスト（以下「招待演奏家」という）による室内楽の楽曲（ソロ又は数人程度のアンサンブルによって演奏される曲）の演奏を中心としたプログラムとする。
- (2) 姫路国際音楽祭との共同開催とし、低料金で開催する。
- (3) 音楽祭の運営には、多くの市民の参加を得るとともに、演奏家と聴衆、市民との様々な交流の機会を創出する。

● 今年のテーマ

榎本大進音楽監督より

It is a franco-russian based program, plus the usual anniversary composers, such as Reger, Ligeti, Rachmaninoff.

今年はフランスとロシアをベースにしたプログラムで、さらにレーガー（生誕 150 年）、リゲティ（生誕 100 年）、ラフマニノフ（生誕 150 年）など、2023 年に生誕周年記念を迎える作曲家も含まれています。

● 演奏会の日程

【赤穂国際音楽祭】

■ 9 月 30 日（土）

- ・招待演奏家によるコンサート（赤穂城跡特設会場 開場 16 時 15 分 開演 17 時）

■ 10 月 1 日（日）

- ・プリコンサート（赤穂化成ハーモニーホール 小ホール 開演 13 時 30 分）
- ・招待演奏家によるコンサート（赤穂城跡特設会場 開場 16 時 15 分 開演 17 時）

■10月3日（火）

・招待演奏家によるコンサート

（赤穂化成ハーモニーホール 開場 17 時 45 分 開演 18 時 30 分）

■10月4日（水）

・招待演奏家によるコンサート

（赤穂化成ハーモニーホール 開場 17 時 45 分 開演 18 時 30 分）

【姫路国際音楽祭】

■10月6日（金）

・招待演奏家によるコンサート（アクリエひめじ 大ホール 開場 18 時 15 分 開演 19 時）

■10月7日（土）

・招待演奏家によるコンサート（アクリエひめじ 大ホール 開場 17 時 15 分 開演 18 時）

● 出演者

樫本大進氏のほか、音楽監督として同氏が推薦する演奏家

7カ国15名参加予定（うち初参加5名）

ヴァイオリン	樫本 大進	日本
	ナタリア・ロメイコ	ロシア
	アレーナ・バーエワ ◎初参加	ロシア
ヴィオラ	リーズ・ベルトー	フランス
	赤坂 智子 ◎初参加	日本
チェロ	アレクサンダー・チャウシャン	アルメニア
	ユリアン・シュテッケル	ドイツ
コントラバス	ナビル・シェハタ	ドイツ
フルート	エマニュエル・パユ	スイス
クラリネット	ポール・メイエ	フランス
バソン	ジルベール・オダン	フランス
ホルン	ブノワ・ド・バルソニー ◎初参加	フランス
ハープ	マリー・ピエール・ラングラメ ◎初参加	フランス
ピアノ	エリック・ル・サージュ	フランス
	ホセ・ガヤルド ◎初参加	アルゼンチン

料金を気軽に楽しめる環境づくりという趣旨に賛同いただき、ボランティア出演となっている。

- プログラム（※やむを得ない事情により、出演者・曲目が変更になる場合があります。）

◆音楽祭第1日目(9月30日/土) (赤穂国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (赤穂城跡特設会場 開場 16 時 15 分 開演 17 時)

雨天時: 赤穂化成ハーモニーホール

セルゲイ・プロコフィエフ	ヘブライの主題による序曲 ハ短調 Op.34	メイエ(Cl)、ロメイコ(Vn)、樫本(Vn)、赤坂(Va)、シュテッケル(Vc)、ガヤルド(Pf)
ベルンハルト・クルーセル	クラリネット、バスーン、ホルンのための演奏会用三重奏曲	メイエ(Cl)、オダン(Bn)、バルソニー(Hr)
マックス・レーガー	クラリネット五重奏曲 イ長調 Op.146	メイエ(Cl)、バーエワ(Vn)、ロメイコ(Vn)、ペルトー(Va)、チャウシャン(Vc)
	—— 休憩 ——	
マックス・レーガー	ピアノ三重奏曲第1番 口短調 Op.2	ロメイコ(Vn)、赤坂(Va)、ガヤルド(Pf)
ガブリエル・フォーレ	ピアノ四重奏曲第1番 ハ短調 Op.15	樫本(Vn)、ペルトー(Va)、シュテッケル(Vc)、ル・サーージュ(Pf)

◆音楽祭第2日目(10月1日/日) (赤穂国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (赤穂城跡特設会場 開場 16 時 15 分 開演 17 時)

雨天時: 赤穂化成ハーモニーホール

ミハイル・グリンカ	悲愴三重奏曲 二短調	メイエ(Cl)、オダン(Bn)、ガヤルド(Pf)
ガブリエル・デュボン	ピアノと弦楽四重奏のための詩曲	樫本(Vn)、バーエワ(Vn)、シュテッケル(Vc)、ル・サーージュ(Pf)
	—— 休憩 ——	
ジェルジュ・リゲティ	ヴァイオリン、ホルン、ピアノのための三重奏曲	バーエワ(Vn)、バルソニー(Hr)、ル・サーージュ(Pf)
コンラディン・クロイツァー	七重奏曲 変ホ長調 Op.62	ロメイコ(Vn)、赤坂(Va)、チャウシャン(Vc)、シェハタ(Cb)、メイエ(Cl)、オダン(Bn)、バルソニー(Hr)

◆音楽祭第3日目(10月3日/火) (赤穂国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (赤穂化成ハーモニーホール 開場 17時45分 開演 18時30分)

マックス・レーガー	セレナード Op.141a	パユ(FI)、樫本(Vn)、赤坂(Va)
クロード・ドビュッシー	ハープ、フルート、ヴィオラのためのソナタ L.137	ラングラメ(Hp)、パユ(FI)、ベルトー(Va)
ミハイル・グリムカ	大六重奏曲 変ホ長調	バーエワ(Vn)、ロメイコ(Vn)、ベルトー(Va)、 チャウシャン(Vc)、シェハタ(Cb)、ガヤルド(Pf)
— 休憩 —		
コンラディン・クロイツァー	フルート、クラリネット、ヴィオラ、チェロ、ピアノのための五重奏曲	パユ(FI)、メイエ(Cl)、赤坂(Va)、 シュテツケル(Vc)、ル・サーージュ(Pf)
ジョルジュ・オンスロウ	ピアノ六重奏曲 変ホ長調 Op.30	パユ(FI)、メイエ(Cl)、オダン(Bn)、 バルソニー(Hr)、シェハタ(Cb)、ガヤルド(Pf)

◆音楽祭第4日目(10月4日/水) (赤穂国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (赤穂化成ハーモニーホール 開場 17時45分 開演 18時30分)

セルгей・ラフマニノフ	悲しみの三重奏曲第1番 ト短調	ロメイコ(Vn)、チャウシャン(Vc)、ガヤルド(Pf)
イーゴリ・ストラヴィンスキー	七重奏曲	バーエワ(Vn)、赤坂(Va)、シュテツケル(Vc)、 メイエ(Cl)、オダン(Bn)、バルソニー(Hr)、 ル・サーージュ(Pf)
クロード・ドビュッシー	神聖な舞曲と世俗的な舞曲 L.103	ラングラメ(Hp)、ロメイコ(Vn)、樫本(Vn)、 ベルトー(Va)、チャウシャン(Vc)、シェハタ(Cb)
— 休憩 —		
モーリス・ラヴェル	フルート、クラリネット、ハープと 弦楽四重奏のための序奏とアレグロ L.103	ラングラメ(Hp)、パユ(FI)、メイエ(Cl)、 樫本(Vn)、バーエワ(Vn)、赤坂(Va)、 チャウシャン(Vc)
ニコライ・リムスキー=コルサコフ	五重奏曲 変ロ長調	パユ(FI)、メイエ(Cl)、オダン(Bn)、 バルソニー(Hr)、ル・サーージュ(Pf)

◇音楽祭第5日目(10月6日/金) (姫路国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (アクリエひめじ 大ホール 開場 18時15分 開演 19時)

ボフスラフ・マルティヌー	ハープ、クラリネット、ピアノ、弦楽三重奏のための室内音楽第1番 H376	ラングラメ(Hp)、メイエ(Cl)、榎本(Vn)、チャウシャン(Vc)、ル・サージュ(Pf)
ハンス・フーバー	ピアノと管楽器のための五重奏曲 Op.136	パユ(Fl)、メイエ(Cl)、オダン(Bn)、バルソニー(Hr)、ガヤルド(Pf)
— 休憩 —		
カミーユ・サン＝サーンス	ハープとヴァイオリンのための幻想曲 Op.124	ラングラメ(Hp)、ロメイコ(Vn)
フランツ・ラハナー	七重奏曲 変ホ長調	バーエワ(Vn)、赤坂(Va)、シュテツケル(Vc)、シェハタ(Cb)、パユ(Fl)、メイエ(Cl)、バルソニー(Hr)

◇音楽祭第6日目(10月7日/土) (姫路国際音楽祭)

招待演奏家によるコンサート (アクリエひめじ 大ホール 開場 17時15分 開演 18時)

ジョゼフ・ジョンゲン	フルート、チェロ、ハープのための三重奏曲 Op.80	パユ(Fl)、シュテツケル(Vc)、ラングラメ(Hp)
ジャン・クラ	ハープ、フルート、弦楽三重奏のための五重奏曲	ラングラメ(Hp)、パユ(Fl)、ロメイコ(Vn)、赤坂(Va)、チャウシャン(Vc)
ルディ・シュテファン	7つの弦楽器のための音楽 Op.16	バーエワ(Vn)、榎本(Vn)、赤坂(Va)、シュテツケル(Vc)、シェハタ(Cb)、ラングラメ(Hp)、ル・サージュ(Pf)
— 休憩 —		
アントン・アレンスキー	組曲第1番 Op.15	ル・サージュ(Pf)、ガヤルド(Pf)
クロード・ドビュッシー(アンリ・デュティユー編曲)	2台のピアノのための「月の光」	ガヤルド(Pf)、ル・サージュ(Pf)
ルイ・シュポア	七重奏曲 イ長調 Op.147	榎本(Vn)、チャウシャン(Vc)、パユ(Fl)、メイエ(Cl)、オダン(Bn)、バルソニー(Hr)、ガヤルド(Pf)

● 演奏会場（赤穂会場）

(1) 赤穂城跡特設会場（第1日目及び第2日目）

※雨天の場合は、赤穂市文化会館 赤穂化成ハーモニーホール

赤穂城本丸櫓門を閉めた状態で、門扉等をそのまま反響板として活用しつつ、本丸内側に向かって仮設ステージを設置する。

客席については、本丸櫓門に向かってパイプ椅子等を並べる。（約 600 席）

ステージを照らす照明設備及び会場内アナウンス用の音響設備を用意する。

観客の出入りは厩口門を使用する。

〈会場イメージ〉（2019年写真）



(2) 赤穂市文化会館 赤穂化成ハーモニーホール（第3日目及び第4日目）

通常のクラシック演奏会の使用（反響板使用）とする。（客席数 1,120 席）



赤穂化成ハーモニーホール

● チケット販売【姫路・赤穂公演】

- ◆赤穂城跡特設会場 指定席（金額 税込1,000円）
- ◆赤穂化成ハーモニーホール大ホール 指定席（金額 税込1,000円）
- ◇アクリエひめじ大ホール 指定席（金額 税込1,000円） ※姫路国際音楽祭

●親子席枠として、一定数の席を確保する。

- 親子ペアチケット（1枚1組） 指定席（金額 税込1,000円）
- （内訳） 赤穂化成ハーモニーホール2階席 【24組 48席】
- アクリエひめじ 【48組 96席】

一般チケット

(1) 購入方法

- ① プレイガイド（ローソン、ぴあ）、窓口販売。（赤穂会場のみ：赤穂化成ハーモニーホールで直接申し込む。）※姫路会場は、窓口販売を行わない。
- ② 8月4日（金）午前9時（プレイガイド（ローソン、ぴあ）は午前10時）より一斉発売する。（以降、窓口販売は午前9時から午後5時15分）
- ③ 赤穂会場のチケットを購入する場合は、1回の受付で一人1公演につき4枚まで（1回の受付で一人2公演8枚を限度とする。購入窓口が公演会場毎で分かれているため、赤穂城跡特設会場と赤穂化成ハーモニーホール会場の両方をご希望の場合は、再度お並びいただく）。姫路会場のチケットは、窓口販売しない。
- ③ 姫路会場のチケットを購入する場合は、一人1公演につき2枚まで（1回の受付で一人1公演のみ2枚を限度とする。）※プレイガイドのみ販売する。
- ④ 電話予約は、赤穂会場のみ残席がある場合に限り受け付ける。
8月10日（木）午前10時から午後5時15分（以降、午前9時から午後5時15分）
火曜休館日を除く。※姫路会場の電話予約は行わない。
- ⑤ 未就学児の入場は不可。

親子ペアチケット

(1) 購入方法

- ①赤穂化成ハーモニーホール2階席（10月3日（火）、10月4日（水）各日12組24席（計24組48席））アクリエひめじ（10月6日（金）、7日（土）各日24組48席（計48組96席））で実施する。

- ② 〔赤穂会場〕往復はがきによる申込みとし、はがき 1 枚につき 1 組の親子ペアの申込みとする。
- ③ 〔姫路会場〕電子申請（インターネットによる申請）による申込みとする。
- ④ 申し込みができる子どもは小学生又は中学生とし、必ず保護者（高校生以上。父母でなくとも可）と 2 人 1 組での申込みとする。（保護者と子どものペア以外の申込みはできない。）
- ⑤ 保護者及び子どもの名前と年齢、子どもの学年を明記する。
- ⑥ 複数枚のはがき応募がある場合は、無効とする。
- ⑦ 入場時にペアの確認をする。
- ⑧ 申込みの締切日は 7 月 10 日（月）とする。（消印有効）
- ⑨ 申込み多数の場合は抽選とし、抽選結果は返信はがき（姫路会場はメール）で通知する。

(2) 往復はがき記入方法

赤穂化成ハーモニーホール

往信〔表〕 〒678-0232 赤穂市中広 864

赤穂市文化会館「赤穂国際音楽祭 親子ペアチケット係」宛

〔裏〕 郵便番号、住所、氏名（2 人の氏名と年齢、学年）、電話番号、公演日

返信〔表〕 申込者の郵便番号、住所、氏名 / 〔裏〕 白紙

以下、姫路国際音楽祭のチケット販売

姫路市民先行販売券

(実施方法)

枚数 600 枚（アクリエひめじ 各日 300 枚）

姫路市内に住所を有する人が対象

申し込みは、電子申請（インターネットによる申請）のみとする。

申込期間を設け、申込多数の場合は抽選する。

当選者には、メールにて通知する。

当選者は、有効期間内にキャスパホールまたはパルナソスホールの窓口にて購入する。

（購入時には、窓口にて当選通知を提示する。）

(先行販売受付期間)

7 月 3 日（月）～18 日（火）

● 関連行事

(1) プリコンサート

ハーモニー弦楽アンサンブル教室 (※)

演奏者が赤穂市及び近隣市町以遠から参加する場合は、往復交通費を主催者が負担するが、報酬に関しては海外アーティストと同様ボランティア出演とする。

※一人でも多くの赤穂の子どもたちに楽器に親しんでもらいたいという強い思いから、榎本大進氏が平成13年に赤穂市に寄贈したヴァイオリン20挺を使用して、平成14年から始まった子どもたちのためのヴァイオリン教室。

【日時】 10月 1日(日) 13時30分開演
 【場所】 赤穂化成ハーモニーホール 小ホール
 【出演】 ハーモニー弦楽アンサンブル教室生 ほか(未定)

(2) ロビーコンサート

【日時】 10月 4日(水) 本公演開場前
 【場所】 赤穂化成ハーモニーホール ロビー
 【出演】 ハーモニー弦楽アンサンブル教室生

(3) ほのぼのコンサート

【日時】 ① 9月30日(土) 11時開演
 (場所) 赤穂中央病院
 (出演) 未定
 ② 10月 1日(日) 11時開演
 (場所) 赤穂市民病院
 (出演) 未定

(4) 展示等

- 赤穂緞通による憩いの場を提供します。
- 黒猫「The47 Black Cats」がお迎えします。
- アーティストの似顔絵展
- 藍染め横断幕
- 文化とみどり財団企画展

● プログラム・グッズ等販売

- ・プログラム
- ・特製Tシャツ(半袖)
- ・ピンバッジ

● 広報及びマーケティング

(1) メディアリリース及びパブリシティ

新聞社（報道部門及び文化部門）、テレビ局、ラジオ局、通信社、音楽専門誌編集部等を対象に、事業基本計画決定時、演奏会プログラム決定時など適切なタイミングでメディアリリース（報道資料）を送付する。

また、榎本大進氏のインタビュー記事掲載、音楽祭期間中の記者レポートなどを働きかける。

(2) ポスター及びチラシ

音楽祭の公式ポスター及び公式チラシを作成し、赤穂市及び姫路市各所、市外コンサートホールなどにおいて掲示又は配布を行う。

(3) ホームページ及び市広報（SNS を含む）

赤穂・姫路国際音楽祭実行委員会の共通ホームページにより、音楽祭関連情報を随時掲載するとともに、広報「あこう」やLINE、Facebook にも音楽祭関連情報を定期的に掲載する。

(4) バナー等

音楽祭開催を告げるバナー（垂れ幕）等を赤穂城までの導線等に掲げ、音楽祭開催の機運を盛り上げる。

(5) その他

各種観光情報媒体に音楽祭関連情報の掲載を働きかける。

● ボランティア募集

音楽祭が広く市民に浸透するように、音楽祭企画・運営（受付、チケット確認、案内、警備、演奏者の接待、通訳等）に市民ボランティアの参画を広く募る。

(1) サービスボランティア：コンサート会場での来場者対応等

(2) 通訳ボランティア：出演者の通訳補助（英語等）

● 協賛金・寄付金の募集【赤穂・姫路公演】

協 賛 の 特 典

◆協賛金は、ル・ポン2023事業全般にわたる経費に充当する。

○ポスター、チラシ等への企業名の掲載

令和5年6月下旬（予定）までに申出をいただいた場合、希望によりポスター、チラシ、ホームページ及びプログラムに企業名を掲載する。

○演奏会への招待

区 分	赤 穂 市				姫 路 市	
	赤穂城跡特設会場		赤穂化成 ハーモニーホール		アクリエひめじ	
	(9/30)	(10/1)	(10/3)	(10/4)	(10/6)	(10/7)
協 賛	4名【注1】					
大口協賛 (6口以上)	6名【注2】					

* 1口5万円でお願ひする。

【注1】 赤穂市及び姫路市での演奏会のうち、希望する2公演に2名ずつ（計4名）招待する。

【注2】 赤穂市及び姫路市での演奏会のうち、希望する3公演に2名ずつ（計6名）招待する。

寄 付 の 特 典

◆寄付金は、赤穂国際音楽祭実行委員会または姫路国際音楽祭実行委員会への寄付とし、各実行委員会が単独で開催する事業に充当する。

○プログラムへの芳名の掲載

希望によりプログラムに芳名を掲載する。（7月初旬締め切り）

○演奏会への招待

区 分	赤 穂 市				姫 路 市	
	赤穂城跡特設会場		赤穂化成 ハーモニーホール		アクリエひめじ	
	(9/30)	(10/1)	(10/3)	(10/4)	(10/6)	(10/7)
寄付(赤穂)	2名【注1】		2名【注1】 (2名【注2】)		/	
寄付(姫路)	/				2名【注1】	
大口寄付 (5口以上)	4名【注3】					

* 1口1万円でお願ひする。

【注1】 赤穂国際音楽祭への寄付者は、赤穂会場の希望する公演に、姫路国際音楽祭への寄付者は、姫路会場の希望する公演に、それぞれ2名招待する。

【注2】 赤穂国際音楽祭への寄付者は、赤穂化成ハーモニーホールについて先着150人、最高300枚（1人2枚まで）の優先販売を行う。（一般と同種の席を優先的に確保し、先着販売する。）

【注3】 大口寄付者は、赤穂市及び姫路市での演奏会のうち希望する2公演に2名ずつ（計4名）招待する。

～ アーティスト紹介 ～

<p>樫本 大進 〈ヴァイオリン〉</p>	<p>1979年ロンドン生まれ。1990年、第4回バッハ・ジュニア音楽コンクールでの第1位を皮切りに、1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーの両国際音楽コンクールでの1位など、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。</p> <p>ドイツを拠点にソリストとして世界の舞台で演奏する傍ら、2010年よりベルリン・フィルの第1コンサートマスターを務める。</p> <p>使用楽器は、株式会社飛鳥（志村昌代表取締役）から貸与された1774年製デル・ジェス「ド・ベリオ」。</p> <p>3歳よりヴァイオリンを恵藤久美子に学び、7歳でジュリアード音楽院プレカレッジに入学、田中直子に師事。11歳の時、名教授ザハール・ブロンに招かれリュベックに留学し、20歳よりフライブルク音楽院でライナー・クスマウルに師事。修士課程においてグスタフ・シェック賞を受賞のうえ修了。</p> <p>これまで、マゼール、小澤征爾、ヤンソンスなど著名指揮者のもと、国内外のオーケストラと共演を重ねているほか、室内楽の分野でも、クレーメル、バシュメット、マイスキー、堤剛、パユなど世界有数のソリストと共演。2007年、兵庫県で室内楽の音楽祭「ル・ポン国際音楽祭 赤穂・姫路」を自ら音楽監督として創設し、赤穂市・姫路市にて毎年開催している。</p> <p>2010年、ベルリン・フィル第1コンサートマスターに就任。同団とは、本拠地ベルリンおよびツアーでの演奏会で、音楽監督ラトルやネルソンス指揮のもとソリストとしても共演している。</p> <p>2014年、ピアノのリフシツとのベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全曲収録CDがワーナー・クラシックスより世界リリースされ、高い評価を得ている。</p> <p>1995年アリオン音楽賞、1997年出光音楽賞、モービル音楽賞、1998年新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、平成9年度芸術選奨文部大臣新人賞、2011年兵庫県文化賞、チェンジメーカー2011クリエイター部門、2017年姫路市芸術文化大賞、2021年赤穂市政特別功労者顕彰、ドイツに於いてはシュタインゲンベルガー賞、ダヴィドフ賞を受賞。</p>
<p>ナタリア・ロメイコ Natalia Lomeiko 〈ヴァイオリン〉 ル・ポン参加：2007～2010、 2012、2013、2015～2018、 2022 【12回目の参加】</p>	<p>1979年ノボシビルスク（ロシア）生まれ。2000年パガニーニ・国際ヴァイオリン・コンクール第1位、同時に金賞受賞、2003年マイケル・ヒル国際ヴァイオリン・コンクール第1位。7歳の時にノボシビルスク響でデビューして以来、メニューイン卿指揮のロイヤル・フィルやフィルハーモニア管を始めとする世界の一流オーケストラのソリストとして活躍。ウィグモア・ホール、バッキンガム宮殿などで演奏会を行い、ギドン・クレーメル、ユーリ・バシュメット、シュロモ・ミンツ、樫本大進等と共演。2011年ロンドンの王立音楽大学教授に就任。近年は、2009年夫であるユーリ・ジスリンとレコーディングを行ったほか世界中で室内楽公演に参加している。</p>
<p>アレナ・バーエフ Alena Baeva 〈ヴァイオリン〉</p>	<p>5歳でヴァイオリンを始め、教育者として有名なオルガ・ダニロヴァに師事する。</p> <p>10歳でモスクワに移り、モスクワ音楽院附属中央音楽学校と国</p>

<p>◎ 【ル・ポン初参加】</p>	<p>立チャイコフスキー音楽院でエドゥアルド・グラチに師事する。 また ムステイスラフ・ロストロポーヴィチ、ボリス・ガルリツキー、スイスで小澤征爾に師事、イスラエルではシュロモ・ミンツ（ケシェット・エイロン音楽学校）に師事した。 第12回ヘンリク・ヴィエニャフスキ国際コンクール（2001年）で、若干16歳にして優勝および現代作品最優秀演奏賞を受賞。その後、パガニーニ・モスクワ国際ヴァイオリン・コンクール（2004）でも優勝し、1723年製のWieniawski Stradivariで1年間演奏することが許された。 仙台国際音楽コンクール（2007年）では、優勝および聴衆賞を受賞した。 2010年以來、夫と3人の子供とともにルクセンブルクに在住している。使用楽器は1738年製ガエルネリ・デル・ジェス“ex-William Kroll”（匿名の支援者からの貸与でJ&A Beares社協力）。</p>
<p>リーズ・ベルトー Lise Berthaud <ヴィオラ> ル・ポン参加:2011、2013、2015、 【4回目の参加】</p>	<p>5歳でヴァイオリンを始め、パリ国立高等音楽院でピエール＝アンリ・グゼレブおよびジェラルド・コセに師事、2005年ジュネーブ国際コンクールでヒンデミット賞を受賞。また、09年のヴィクトワール・ドゥ・ラ・ミュジクでは新人賞にノミネートされた。 ソリストとして、BBC交響楽団、アイスランド交響楽団、ベルギー国立交響楽団、フランス国立リヨン管弦楽団、レ・ミュージシャン・デュ・ルーヴル、サンパウロ交響楽団、香港シンフォニエッタを含むオーケストラ、サカリ・オラモ、ファビアン・ガベル、エマニュエル・クリヴィヌ、レナード・スラットキン、マルク・ミンコフスキ等の指揮者と共演。2014年にはリットン指揮のBBC響との共演でBBCプロムス・デビュー。 高い評価を獲得したエリック・ル・サーージュのシューマンおよびフォーレ録音プロジェクトに参加後、2013年にアダム・ラルーム（ピアノ）との共演によるアルバムをリリース。また同年、スラットキンの指揮の招きでフランス国立リヨン管とベルリオーズ「イタリアのハロルド」を演奏、録音している。 現代作品の演奏にも熱心に取り組み、P.エルサン、T.エスケシュ、H.デュティユー、G.クルターグ、G.コネッソン、F.ミュルサンを含む作曲家の作品を演奏している。 演奏楽器は1660年アントニオ・カシーニ製ヴィオラ（ベルナル・マグレより貸与）</p>
<p>赤坂 智子 <ヴィオラ> ◎ 【ル・ポン初参加】</p>	<p>桐朋女子高等学校音楽科卒業後リスト音楽院留学。その後桐朋学園大学ディプロマコースを修了。ジュネーブ音楽院にて今井信子に師事ならびに同校助教授に就任。ヌシャテル音楽院客員教授を経て現在デュッセルドルフ音楽院講師として後進の指導に当たる。2019年よりミュンスター音楽大学教授、イタリア ブレシア音楽アカデミー教授も兼任。 在学中より、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、水戸芸術館ATMアンサンブル、ヴィオラスペース等に出演。 海外では、ルツェルン音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、ザルツブルグ音楽祭、ラ・フォルジュルネ、BBCプロムス、チャイコフスキー音楽祭、サンフランシスコ音楽祭など多数の音楽祭に招かれる。また、コンサートヘボウ、ベルリン・フィルハーモニー、ロイヤル・アルバートホール、ウィーン・ムジークフェライン、ザルツブルグ・モーツァルテウムホールなど各地の主要ホールにて室内楽、リサイタルに出演。</p>

	<p>これまでに、庄司紗矢香、榎本大進、ギドン・クレメル、ミクロシュ・ペレーニ、ダニエル・ホープ、メナハム・プレスラー各氏、エベヌ・カルテット、クス・カルテット等と共演。ソリストとしては、バイエルン放送響、クレメラータ・バルティカ、ベネズエラ交響楽団、ミュンヘン室内管弦楽団、ジュネーブ室内管弦楽団等と共演を果たす。</p> <p>第53回ミュンヘンARD国際音楽コンクール・ヴィオラ部門第3位。パリ Edmund Pendreton 財団よりミュージシャン・オブ・ザ・イヤーに選ばれる。</p> <p>2019年に発売されたアコーディオンの大田智美とのデュオCDがJALの機内音源にピックアップされるなど好評を博している。</p>
<p>アレクサンダー・チャウシヤン 〈チェロ〉 Alexander Chaushian 〈チェロ〉 ル・ポン参加：2010、2014 【3回目の参加】</p>	<p>1977年アルメニア生まれ。2001年ピエール・フルニエ賞受賞、2002年第12回国際チャイコフスキー・コンクール第3位などの栄冠に輝き、現在最も優れた若手チェリストの1人と評価されている。ソリストとしては、フィルハーモニア管弦楽団、スイス・ロマン管弦楽団、ボストン・ポップス・オーケストラなど世界中の著名なオーケストラと競演。英国、フィンランド、フランス、ドイツなど各国の音楽祭でも活発なリサイタル活動を行い、キプロスのファロス国際室内音楽祭やアルメニアのエレヴァン音楽祭の芸術監督に就任している。</p> <p>〜ル・ポン 2014 事業計画書より〜</p>
<p>ユリアン・シュテッケル Julian Steckel 〈チェロ〉 ル・ポン参加：2013、2021 【3回目の参加】</p>	<p>現代を代表するチェリストの一人。2010年ミュンヘン国際音楽コンクールで第1位と同時に、聴衆賞、エームス・クラシック賞、ミュンヘン室内管弦楽団賞を受賞。</p> <p>これまでに、クリストフ・エッセンバッハ、サー・ロジャー・ノリントン、ヴァレリー・ゲルギエフ、ヤクブ・フルシャ、山田和樹等の指揮者と、バイエルン放送響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ミュンヘン・フィル、ベルリン放送響、パリ管、サンクトペテルブルク・フィル等と共演し、ルツェルンをはじめ主要音楽祭に出演。室内楽では、ジャニーヌ・ヤンセン、クリスティアン・テツラフ、ヴェロニカ・エーベルレ、アントワン・タメステイ、ラルス・フォークト、エリザベート・レオンスカヤ、パウル・リヴィニウス、デニス・コジュヒンのほか、モディリアーニ弦楽四重奏団、エベヌ弦楽四重奏団等と共演している。アヴィ・ミュージックよりリリースした『20世紀チェロ協奏曲集』は、2012年エコー・クラシック賞を受賞した。</p> <p>ドイツ生まれ。ウルリッヒ・ヴォス、グスタフ・リヴィニウス、ボリス・ペルガメンシコフ、ハインリヒ・シフ、アンティエ・ヴァイトハースに師事。現在、ミュンヘン音楽大学の教授を務める。</p>
<p>ナビル・シェハタ Nabil Shehata 〈コントラバス〉 ル・ポン参加：2010、2012 〜2017、2019年 【9回目の参加】</p>	<p>1980年クウェート生まれ。4歳よりドイツに在住。9歳でコントラバスを学ぶ。2003年難関ミュンヘン国際音楽コンクールにてコントラバス奏者として初の優勝を飾り、さらに聴衆賞も受賞。同年、ダニエル・バレンボイムの招きでベルリン国立歌劇場管の首席コントラバス奏者に就任。翌年にはベルリン・フィルの同ポストに就任。長年にわたりイスラエルとアラブ諸国の共存を理念とするウェスト＝イースタン・ディヴァン管のメンバーも務めている。</p> <p>2007年、ミュンヘン音楽大学の教授に就任し、ヨーロッパ、イスラエル、日本でのマスタークラスのほか、ベルリン・フィル・アカデミーでの指導を行う。</p> <p>また、ダニエル・バレンボイムやクリスティアン・ティーレマンの指導のもと指揮を学び、2007年に指揮者デビューを果たし好評を得た。</p>

	<p>2008年には、グスタボ・デュダメルに招かれ、シモン・ボリバル・ユース・オーケストラを指揮し、大成功を収めた。近年ではトゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、京響、大阪フィル、新日フィル、デュッセルドルフ響なども指揮している。2011年よりミュンヘン室内歌劇場音楽監督。</p>
<p>エマニュエル・パユ Emmanuel Pahud 〈フルート〉 ル・ポン参加：2010、2016、2019 ～2022 【6回目の参加】</p>	<p>6歳でフルートを始め、パリ国立高等音楽院でミシェル・デボスト、アラン・マリオン、クリスチャン・ラルデ、ピエール＝イヴ・アルトーに師事、同音楽院卒業後はバーゼルのオーレル・ニコレの下で研鑽を積んだ。1989年の神戸国際コンクール第1位で日本のフルート・ファンの注目を一気に集め、92年には最難関のジュネーヴ国際コンクール第1位を獲得。</p> <p>1992年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のオーディションに合格し、翌年には首席奏者に就任。2000年6月ベルリン・フィルを退団、同年9月から2001年6月までジュネーヴ音楽院フルート科の教授として後進の指導にあたる。</p> <p>2002年4月ベルリン・フィルに復帰、同オーケストラ首席奏者およびソロ・フルーティストとしての演奏活動を再開。</p> <p>来日も多く、リサイタルの他、N響、東響、読響を含むオーケストラとの共演、レ・ヴァン・フランセ(木管アンサンブル)での公演、またマスタークラスも行っている。2006年放送の大河ドラマの紀行音楽にも参加した。録音ではワーナー・クラシックスと専属契約を結び、20作を超えるCDをリリース、多くの賞を受賞している。</p> <p>フランス芸術文化勲章「シュヴァリエ」受章。英国王立音楽院名誉会員。</p>
<p>ポール・メイユ Paul Meyer 〈クラリネット〉 ル・ポン参加：2007、2010、2012 ～2013、2015～2018、2022 【10回目の参加】</p>	<p>名実共に世界のトップに立つクラリネット奏者。1965年アルザス生まれ。13歳でソリストとしてデビュー。パリ高等音楽院とバーゼル音楽院で学ぶ。フランス国内外のコンクールで優勝後、84年NYデビュー。ベニー・グッドマンに出会い親交を結ぶ。以来世界有数のソロ・クラリネット奏者として活躍。</p> <p>協奏曲のレパートリーは約100曲もの数にのぼり、完璧な技術とずば抜けた音楽性、品のある豊かな音色を併せ持つ天才クラリネット奏者として、ベリオ、ペンデレツキを始めとする数多くの作曲家達から曲を捧げられ、初演も多い。</p> <p>室内楽でも活発な活動を行っており、クレーメル、ヨーヨー・マ、デセイ、ピリス、ロストロポーヴィチ、スターン、バシュメット、パユ等世界一流のソリスト達、及び、エマーソン、ハーゲン、東京クワルテット等の弦楽四重奏団とも共演。パユやオーボエのフランソワ・ルルー等、現代最高のフランスの木管奏者達とアンサンブル、「レ・ヴァン・フランセ」を結成し、絶賛されている。</p> <p>著名なクラリネット奏者として活躍する一方、指揮者としてのキャリアも急速に築きつつある。これまでに、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団を始めとするヨーロッパ各地の主要オーケストラ、台北交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等を指揮。ルイサダのモーツァルト及びハイドンの2枚のCDのほか、ミヨーの協奏曲集のCDでも指揮者を務めている。ソウル・フィルハーモニー交響楽団の准首席指揮者を経て、2010年～2012年12月東京佼成ウインドオーケストラの首席指揮者を務めた。</p>

<p>ジルベール・オダン Gilbert Audin <バスン> ル・ポン参加: 2010、2016、2018 ~2019、2022 【6回目の参加】</p>	<p>使用楽器はビュッフェ・クランボン。</p> <p>1956年フランス生まれ。フランス式バスンの第一人者。1973年にパリ国立高等音楽院に入学、バスンをモーリス・アラールに、室内楽をクリスティアン・ラルデに学ぶ。同音楽院在学中、1975年バスンで、1976年室内楽で一等賞を受賞。1975年ミュンヘン国際ARD国際音楽コンクール第3位、1980年ジュネーヴ国際コンクール、1982年トゥーロン国際コンクールの両コンクールで第1位となる。</p> <p>現在、パリ・オペラ座管弦楽団の首席バスン奏者を務めるとともに、パリ国立高等音楽院の教授として後進の育成にもあたっている。</p> <p>オダンは、ポール・メイエがパユ、ル・サーージュらと主宰するアンサンブル、レ・ヴァン・フランセの重要なメンバーで、フランスのエスプリが輝く彼らの完璧なアンサンブルは絶賛されている。</p>
<p>ブノワ・ド・バルソニー Benoit de Barsony <ホルン> ◎【ル・ポン初参加】</p>	<p>ブノワ・ド・バルソニーは現在、パリ管弦楽団の首席ホルン奏者である。パリ国立高等音楽院を卒業後、2005年9月にフランス国立管弦楽団、2006年にパリ管弦楽団に入団し、クリストフ・エッシェンバッハ、パーヴォ・ヤルヴィ、ダニエル・ハーディングの指揮のもとで活動している。また、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団(アムステルダム)やヨーロッパ室内管弦楽団の首席ホルン奏者としても活躍している。室内楽活動を積極的に行い、多くの音楽祭(フィンランドのクフモ音楽祭、アンセロン音楽祭、エンペリ音楽祭、オスナブリュックのクラシック・コン・ブリオなど)に参加している。</p> <p>ソリストとして、プレイエルホールでのパリ管弦楽団、フィルハーモニー・ド・パリ、NHK交響楽団、ラインガウ音楽祭でのジュネーブ室内管弦楽団、サヴォア地方管弦楽団、ブザンソン管弦楽団と共演している。</p>
<p>マリー=ピエール・ラングラメ Marie-Pierre Langlamet <ハープ> ◎【ル・ポン初参加】</p>	<p>フランスのグルノーブルに生まれる。8歳でニース音楽院に入学、エリザベス・フォンタン=ビノシュよりハープの指導を受け、15歳でイギリスのマリア・コルチンスカ国際ハープ・コンクールで最高位を受賞。翌年にはパリのシテ・デザール国際ハープ・コンクールで優勝。17歳でニース歌劇場管弦楽団の首席ハープ奏者に就任後、合衆国へ渡りカーティス音楽院で研鑽を積んだ。20歳の時から5年間メトロポリタン歌劇場管弦楽団の副首席奏者を務め、その間、ニューヨーク・コンサート・アーティスト・ギルド・コンクール第1位、イスラエル国際ハープ・コンクール第1位を受賞。1993年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席ハープ奏者に就任。ソリストとして、これまでクラウディオ・アバド、サー・サイモン・ラトル、トレヴァー・ピノック、マレク・ヤノフスキ、ホルスト・シュタインを含む指揮者、ベルリン・フィル、イスラエル・フィル、スイス・ロマン管をはじめとするオーケストラと共演。カラヤン・アカデミー、ベルリン芸術大学で後進の指導に当たるなど、指導者としても活躍している。2003年フランス芸術アカデミーより権威あるCino del Duca賞を、09年にはフランス芸術文化勲章「シュヴァリエ」を受章。</p>
<p>エリック・ル・サーージュ Eric Le Sage</p>	<p>南仏エクサン・プロヴァンス生まれ。パリ国立高等音楽院を17歳で卒業後、ロンドンでマリア・クルチオに師事。1985年ポルト</p>

<p><ピアノ> ル・ポン参加: 2008、2011、2015 ~2018、2021~2022 【9回目の参加】</p>	<p>国際および 89 年ロベルト・シューマン国際第 1 位などのコンクール受賞歴を持つ。</p> <p>ウィグモア・ホール、シャトレ座、アムステルダム・コンセルトヘボウ、フランクフルト・アルテ・オーパー、ケルン・フィルハーモニー、カーネギーホールを含む著名コンサートホールに出演するほか、フィラデルフィア管、トロント響、シュトゥットガルト放送響、ドレスデン・フィル、フランス放送フィル、トゥールーズ・キャピトル国立管、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管、ロッテルダム・フィル、読響、都響を含む数々のオーケストラと共演。</p> <p>優れた室内楽奏者としても知られ、1992 年よりポール・メイエ（クラリネット）、エマニュエル・パユ（フルート）等と共にサロン・ド・プロヴァンス国際室内楽音楽祭を主宰。</p> <p>プーランクの室内楽作品全集、シューマンのピアノ曲・室内楽作品全集（2010 年ドイツ・レコード批評家賞受賞）、フォーレの室内楽作品全集を含む多数の CD をリリース。</p> <p>フライブルク音楽大学教授。</p>
<p>ホセ・ガヤルド Jos Gallardo <ピアノ> ◎【ル・ポン初参加】</p>	<p>アルゼンチンのブエノスアイレスに生まれる。5歳の時にブエノスアイレスの音楽院でピアノを学び始め、その後マインツ大学音楽学部でボルディ・ミルドナー教授に師事、同大学を卒業した。在学中、室内楽に情熱を抱くようになりメナヘム・プレスラー、セルジュ・チェリビダッケなどから音楽的影響を受けている。</p> <p>ホセ・ガヤルドは国内外で数多くの賞に輝き、ロッケンハウス室内楽フェスティバル、ヴェルビエ音楽祭、ルツェルン音楽祭、シュレースヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭など多くの音楽祭に招かれる。</p> <p>ヨーロッパ、アジア、南米で頻繁にコンサートや室内楽活動が続ける中で、ギドン・クレーメル、アンドレアス・オッテンザマ等との共演を果たし、またベルリン・フィルハーモニー、ウィグモア・ホール、ウィーン楽友協会、ハンブルク音楽堂、フィレンツェのデッラ・ペルゴラ劇場、ローマ聖チェチーリア音楽院などで演奏した。</p> <p>EMI、ヘンスラー、ナクソスなどからCDをリリース。SWRをはじめとするテレビ、ラジオ番組のための録音でも活躍している。</p> <p>1998年から2008年にかけてマインツ大学音楽学部で教鞭をとり、2008年秋からはアウクスブルク大学のレオポルト・モーツァルト・センターで後進の指導にあたっている。</p>